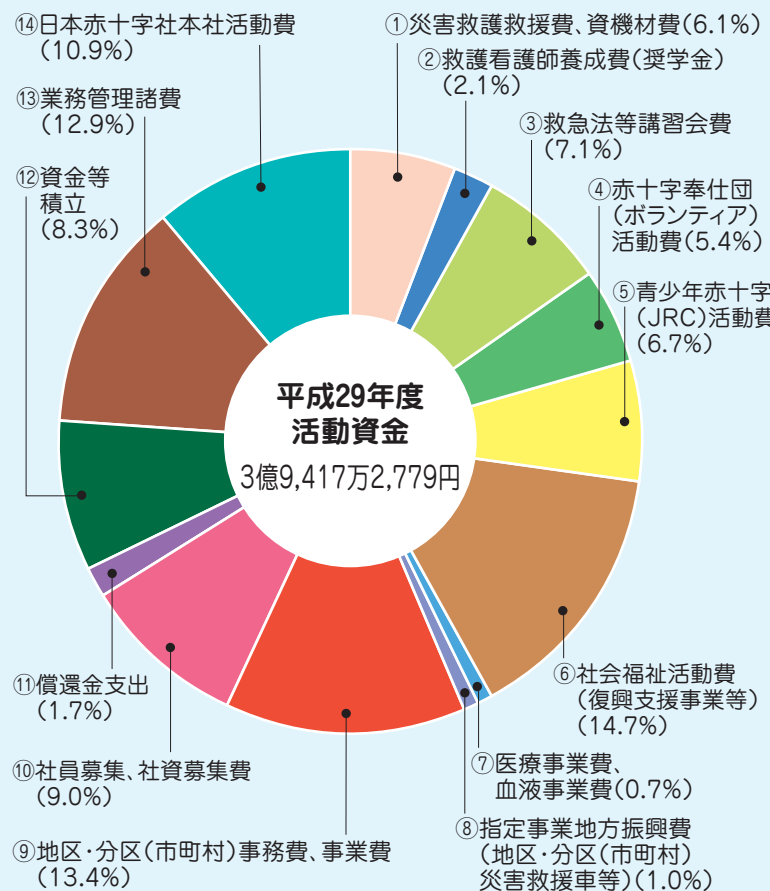


平成29年度 日本赤十字社福島県支部 一般会計決算報告



【歳入】	
①一般社資収入(個人社費、寄付金)	267,328,697円
②法人社資収入(法人社費、寄付金)	28,601,881円
③委託金収入	3,203,688円
④本社交付金	77,831,682円
⑤繰入金(資金、特別会計)	4,220,000円
⑥償還金収入	6,760,000円
⑦雑収入	3,314,778円
⑧前年度繰越	51,629,868円
合 計	442,890,594円
【歳出】	
①災害救護救援費、資機材費	23,866,384円
②救護看護師養成費(奨学金)	8,419,540円
③救急法等講習会費(救急法、水上安全法、幼児安全法、健康生活支援)	28,152,529円
④赤十字奉仕団(ボランティア)活動費	21,298,097円
⑤青少年赤十字(JRC)活動費	26,329,839円
⑥社会福祉活動費(復興支援事業等)	57,775,088円
⑦医療事業費、血液事業費	2,857,114円
⑧指定事業地方振興費(地区・分区(市町村)災害救援車等)	3,840,000円
⑨地区・分区(市町村)事務費、事業費	52,607,773円
⑩社員募集、社資募集費	35,613,891円
⑪償還金支出	6,760,000円
⑫資金等積立	32,750,764円
⑬業務管理諸費	50,880,174円
⑭日本赤十字社本社活動費	43,021,586円
合 計	394,172,779円
歳入歳出差引額(繰越金)	48,717,815円

※繰越金は、翌年度はじめての活動資金となります。

あなたの思いを赤十字に ～ご自分や故人の思いを 広く社会に役立てるために～

日本赤十字社の行う様々な活動は国や県の補助金を受けておらず、赤十字にご賛同いただいた皆様からのご支援によって実施されます。赤十字へのご寄付は税制優遇措置がある他、ご協力いただいた金額により表彰制度を設けております。また、故人様の遺言やご遺族様からの「故人の遺産を広く社会のために役立てて欲しい」との尊いお申し出に答えるために遺贈、相続財産のご寄付も承っております。

赤十字だからこそできる活動へのご支援ご協力をお願いいたします。



発行所／日本赤十字社 福島県支部
〒960-1197 福島県福島市永井川字北原田17
TEL 024-545-7997(代)
<https://fukushima.jrc.or.jp>

+ 日赤ふくしま



2019年で 日本赤十字社福島県支部は 創立130周年



北海道胆振東部地震救護班第一班の活動



西日本豪雨災害こころのケア班の活動



北海道胆振東部地震救護班第二班の活動

災害救護活動

平成30年9月6日(木)午前3時7分に発生した平成30年北海道胆振東部地震に伴い、日赤北海道支部は直ちに救護活動を展開し、日赤福島県支部からも厚真町・安平町・むかわ町に救護班2班・こころのケア班・支援の職員等を派遣しました。

災害対策本部の調整のもと各避難所のアセスメント(情報収集)や巡回診療を実施し、避難された方々に寄り添い、支援の手を差し伸べました。

また、平成30年7月西日本豪雨災害においても、広島県呉市にこころのケア班を派遣し、健康支援やリラクゼーション等の活動を実施しました。

日本赤十字社は、人道を胸に皆さまのいのちと健康・尊厳を守るためこれからも活動しつづけます。

赤十字は皆さまからお寄せいただいた活動資金に支えられています

平成30年度の福島県支部事業

健康生活支援講習支援員養成講習+認知症サポーター養成講座



5月から健康生活支援講習支援員養成講習、認知症サポーター養成講座を福島赤十字病院、日赤福島県支部で開催しています。

参加者の中には、家族に介護や見守りが必要な方がいたり、自分が高齢期を迎える時のために、または地域での活動に役立てたいという方もいらっしゃいました。支援講習では実際にベッドや車いすを使用し、ホットタオルの作り方など体験を通して学ぶことができます。

日赤福島県支部では、いのちと健康を守る講習として、救急法、防災セミナーなど、さまざまな講習会を開催しています。詳しくはお問い合わせください。

【問い合わせ】 日本赤十字社福島県支部 電話 024-545-7996

ふくしま防災フェア2018

10月20日～21日、「ふくしま防災フェア2018」が会津若松市の「鶴ヶ城体育館駐車場」で開催されました。このイベントは、普段、防災に触れる機会の少ない親子連れやお子さんたちに、気軽に「防災」を見て、触れて、学ぶ場の提供を目的として、日赤福島県支部と福島県との共催により催されました。

当日は様々な企業・団体からブース出展いただくなか、日赤もブースを設け、防災教育普及のための「防災すごろく」や救急法・幼児安全法の体験、救援物資・資機材・DMAT（災害派遣医療チーム）車などの展示、パネルによる西日本豪雨や北海道胆振東部地震での救護活動紹介、救護所のイメージ展示、献血バスでの子ども向け模擬献血体験などが行われました。



平成30年度赤十字ボランティアのつどい(第9回)

10月16日、「平成30年度赤十字ボランティアのつどい(第9回)」を郡山市の「ビッグパレットふくしま」で開催しました。関係者等約500名参加のもと、長年にわたり赤十字活動に尽力されている赤十字奉仕団の皆さまへの表彰式が行われました。

活動事例発表では、矢吹町災害時ボランティアネットワークセンターの柳田政弘会長に「被災地活動に学ぶ～今後の地域防災活動～」と題して発表をしていただきました。

また、「自助で安心、共助で連携、公助で安全」をテーマに矢吹町の方々にトークセッションをしていただきました。



青少年赤十字福島県指導者研修会・学校公開

10月19日に開催した学校公開は、2年間の研究推進校に指定された西会津町立西会津小学校・西会津中学校が、青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」児童生徒の育成を研究主題に、授業公開やテーマ別分科会を通して、研究の成果を発表することができました。

小学校では、道徳と特別活動の授業での学び合いを通して、中学校では、総合的な学習の時間で地域との交流の実践を通して、実践目標である「健康・安全、奉仕、国際理解」の具現を図っていました。小学生は、子どもたちが友達の話をよく聞き、自分の考えをしっかりと話す姿が印象的でした。中学生は、生まれ育った西会津町の理解と地元の方々との交流から培った深いふるさとへの愛情を、堂々とした発表の姿から感じることができました。特に中学生においては、教師に指示されることなく、自分たちで企画した発表会を自分たちで運営する姿に、青少年赤十字の態度目標のあるべき姿を見る思いでした。



平成31年1月1日に新病院オープン 福島赤十字病院



新病院(平成30年10月13日撮影)

